

みなみかせ

令和5年度学校教育目標

「ふるさとと人を愛し、自らの夢に向かって、力強く歩み続ける子どもの育成」

学校教育目標「人を愛する」ことに関して(その2)

今回は、「自分は誰かの役に立っている」という問いに対する各国の若者の回答です。これは**自己有用感**につながるものです。

私はこれを見て最初安心しました。日本は48.2%で、ドイツよりは低いのですが、アメリカやイギリスよりは高かったからです。

しかし、その後にとっても気になることが書いてありました。日本の若者は自分が役に立っていないと強く感じている者ほど、自分自身に満足している者の割合が低かったそうです。同様の関係は、諸外国の若者の意識には認められなかったそうです。

このことからこんなことが予想されます。

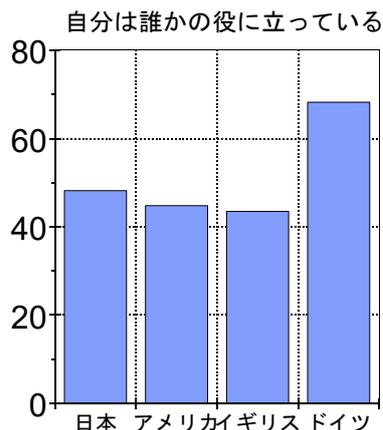
「諸外国の場合には自己有用感を高めても自分を好きになることとは直接的な関係はない。しかし、**日本の場合には、自己有用感を高めることで自分を好きになる割合を増やすことができる。**」このことから、自己有用感を高める取組を学校で行えば、自分を好きになる子どもの割合が高くなると予想されます。ですから、菊陽北小でも係活動などいろんな場面で自分が誰かの役に立っていると思える子どもたちを育てたいと思いました。

また、全校集会などで子どもたちにこれまでこんなことを言いました。

「自分を好きになろう」
 「自分のいいところがたくさん言えるようになろう。」
 「帰りの会などで友達にいいところをたくさん伝えよう。」

友達のいいところ探しをして、気づいたことを伝え合うことを通して、自分が気づかない自分のいいところをたくさん発見してほしいと思い取り組んできました。

保護者の皆さんは我が子の良いところがいくつ言えますか。**是非お子さんにたくさん伝えてください。**学校でも頑張りますので、ご家庭でもご協力をよろしくお願い致します。



おすすめの本シリーズ30

- ①本名：「モモ」時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にかえしてくれた女の子のふしぎな物語
- ②対象年齢：小学校6年 ③360P
- ④作者：ミヒヤエル・エンデ ⑤訳：大島かおり 出版社：岩波書店



時間どろぼうに盗まれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしぎな物語です。時間に追われ、人間本来の生き方を忘れてしまっている現代の人々に、風変わりな少女モモが時間の真の意味を気づかせます。